

## 研究・調査報告書

報告書番号 204	担当 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol consumption contributes to women's well-being through the menopausal transition. 中等量の飲酒は閉経期の女性のウェルビーイングの一助となる	
執筆者	
Alati A, Dunn N, Purdie D.M, Roche A.M, Dennerstein L, Darlington S.J, Gutbrie J. R and Green A.C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Climacteric. 2007 Dec;10(6):491-9.	
キーワード	
ウェルビーイング、アルコール、運動、ライフスタイル、自己評価の健康度、閉経	
要 旨	
<p>目的： オーストラリア人中年女性における飲酒とウェルビーイングの関連を、他のライフスタイルも考慮に入れながら検討した。</p> <p>方法： ベースライン調査時に 45～55 歳の都市在住のオーストラリア人女性について、前向き観察研究を実施した。自己評価でのウェルビーイング度と毎日のハッスル度を含む、健康とライフスタイルについての質問票を年 1 回使用することで、8 年間の評価を実施した。統計学的解析はクラスター解析と反復測定解析を実施した。</p> <p>結果： 女性の約 80%が面接の前の週に飲酒していた。アルコール摂取は全体でウェルビーイングと弱い関連が見られた (<math>p=0.094</math>)。中等量の飲酒をする女性は飲酒しない女性や大量飲酒する女性と比べ、高いウェルビーイング度を示した。しかし、その人たちはまた、非喫煙者であり、週 1 回以上運動する人たちでもあった (相関 <math>p=0.023</math>) (全対象者の 21%)。毎日の症状やストレスはウェルビーイングと逆相関した (すべての <math>p&lt;0.001</math>)。</p> <p>結論： 閉経期の女性においては、ウェルビーイングは、有力な独立した効果を持つといわれるほかの個人要因より、他のライフスタイル因子と相乗効果があるにせよ、中等量の飲酒のほうが正の関連があった。</p>	